

# 日本語とタイ語における外来語の受容について

ブンナーク・パッタラーパン\*

## 1. はじめに

現代の国際化社会において外国と接する機会が多くなると共に、その国の文化や言語の影響も避けられなくなっている。日本及びタイでも外国からのあらゆる影響を受けている。また、日本とタイは長い交流の歴史があるため（外務省：日タイ修好 120 周年）、両国双方の影響も考えられる。自国に従来なかった新しい事物や概念、考え方を表現するために、それらを指すための言葉が必要になる。そのため、別の言語から自国語に言語表現の借用や導入をすることが多い。

世界共通言語である英語は、両言語に最も大きな影響を与えていることが明らかになっている。日本は特に明治維新から、外国の文化を取り入れ、欧米語が流行した。しかし、関東大震災によりそれまでの文化や経済が破壊し、ヨーロッパ文明からアメリカ文明へと入れ替わり、アメリカ化が進行した。この時に英語からの外来語が日本語に大量に流入した（米川,1996）。現代の外来語の 9 割以上が英語から取り入れられたものだといわれている（『国語学大辞典』1980）。

一方、タイは 16 世紀に英米との交流が盛んになり、ラーマ 4 世の時代（1851-1868 年）から英語が注目され、ラーマ 5 世の時代（1858-1910 年）では英語教育が最も盛んになった。

このように、両言語に英語由来の外来語は多く使用され、また、研究も数多くなされている。タイ語においては、表音文字であるため音や形は異なるが、日本語由来の外来語も多く見られる。しかし、日本語におけるタイ語由来の外来語は少ないと思われる。そこで、本研究では世界共通語

である英語由来の外来語の受容の分析のもとに、日タイにおける外来語の受容はどのような特徴があるのか、その共通点と相違点を明確にすることを目的とした。

なお、本稿での日本語における外来語は、日本語に定着した「漢語」は含めず、欧米諸言語から日本語に入ってきて、カタカナで表記する言葉と定義する。一方、タイ語における外来語とは、外国語からタイ語に導入され、タイ文字で表記する語とする。なお、パーリ・サンスクリット語は漢語と同じようにタイ語の中に深く入り込み、タイ語と同化し、タイ語の一部となっているため、本研究の外来語には含めない。

## 2. 先行研究

日タイの対照研究は少ないが、タイ語における外来語の研究は多く見られる。

坂本(1984)は、タイでは外国語・外来語が氾濫しているのにも拘らず、外来語論争らしきものは未だないが、タイ語の乱れを批判する声は以前からあると述べた。また、坂本が調査したタイ語に定着している外来語と国立研究所の日本語の外来語の調査結果を比較すると、タイ語における西洋語からの外来語が日本語に比べると圧倒的に少ないことを明らかにした。その理由は、タイは文明開化の歴史が日本に比べるとずっと遅いことと、近代化を促進するために、政府が訳語を制定するための審査会を設置し、外国語の訳語を定めたことであると述べている。

英語由来の外来語の研究は Karnchana (1979)と Watana (1981)がある。

\* お茶の水女子大学大学院院生

Karnchana (1979)は、タイ語に定着している英語由来の外来語がどのようにタイ語に定着したかについて音声的な研究を行い、分析している。

Watana (1981)は、ラーマ3世の時代(1824-1851年)からラーマ5世の時代(1858-1910年)の英語由来の外来語を対象とし、外来語の受容の歴史的变化とタイ語における英語由来の外来語の音韻の変化とタイ語の音韻に及ぶ影響について説明している。

この2つの研究はいずれもタイ語に導入された英語由来外来語の音声・音韻的な研究である。

タイ語における様々な外来語に関する総合的な研究ではウイライラック(2012)が挙げられる。

ウイライラック(2012)は、現代のタイ語に存在する外来語、パーリ・サンスクリット語、クメール語、中国語、西洋諸言語、その他の役割・特徴を明らかにした。また、タイ語に導入される外来語の3種類の造語法について記述している。

タイ語における日本語由来の外来語の研究は、中山(2007)、チューシー(2012)、山口(2012)が挙げられる。

中山(2007)は、タイにおける様々な商品の日本語表示やタイで見られる日本語の姿を考察し、商品に付けられている日本語を含む多言語表示の傾向は、日本のイメージと日本語がリンクされて、その商品のアピールやイメージ喚起に利用されていることを明らかにした。しかし、この研究は日本語表記に着目したものであり、日本語のタイ語表記には触れていない。

チューシー(2012)は、タイ語における日本語の外来語を110語集め、10代～20代前半206名のタイ人の日本語の借用語に対する認知度を解明し、外来語の流行を測った。その結果、単純借用語(音訳)は意味が分からないため認知度が低く、翻訳借用語(意訳)は馴染みやすいため、認知度が非常に高く、転用語は、本来の意味を持っている単純借用語より認知度が高いと述べている。

山口(2012)は、言語普及の観点からタイ語を中

心に英語・中国語・韓国語の中の日本語の普及を考察した。タイ語の中の日本語の普及の要因は、宗教や文化の要因が強いと述べている。

以上のように、外来語の研究は様々な視点で研究されているが、日本語とタイ語の対照研究は少ないことが見て取れる。

### 3. 研究方法

「日本語とタイ語における英語由来外国語の受容方法」は、先行研究を参考にし、外国語の受容法をまとめた。タイ語の場合はタイ王立学士院刊の『ศัพท์ต่างประเทศที่ชาวไทยแทนได้』(2006)(タイ語で代用できる言葉)、『พจนานุกรมคำใหม่ เล่ม๑』(2008)、『พจนานุกรมคำใหม่ เล่ม๒』(2010)、『พจนานุกรมคำใหม่ เล่ม๓』(2012)の3つの新語辞典における語彙をもとに分析を行った。例はこれらの資料から引用した。

「日本語におけるタイ語由来の外来語」及び「タイ語における日本語由来の外来語」は新聞記事、『コンサイスカタカナ語辞典 第3版』(2005)と『現代用語の基礎知識カタカナ・外来語/略語辞典』(改訂増補新版)(2009)の外来語辞典、タイ王立学士院のタイ・タイオンライン辞典<sup>1</sup>、『タイ日辞典』(1987)と『タイ語辞典 第1版』(1994)のタイ日辞典、インターネット検索: Google ウェブ検索<sup>2</sup>と Google トレンド<sup>3</sup>を手段とし、分析を行った。

### 4. 分析結果

#### 4.1 外国語(英語)の受容法

日本語とタイ語における外国語は4種類の受容法によって取り入れられている。

##### 1) 意識:

もとの外国語の意味と全く同じではないが、意味的に近い日本語・タイ語の言葉や表現を当てる方法。

日本語では、漢語または漢字で外来語を受け入

れ、タイ語はタイ語、つまり、タイ文字で取り入れている。表1で例を取り上げる。

表1 日・タイの意識語の例

| 英語          | 日本語  | タイ語                        |
|-------------|------|----------------------------|
| individual  | 個人   | ปัจเจกชน<br>[pàtcèek chon] |
| philosophy  | 哲学   | ปรัชญา<br>[pràt cha yaa]   |
| antibiotics | 抗生物質 | ปฏิชีวนะ<br>[pàtichiiwaná] |

2) 音訳：

外国語の意味や概念を保つため、原語に近いと思われる発音を自国の文字で書き換える方法。この方法はいわゆる「外来語」の一般的な受容法である。外来語を日本語はカタカナ表記で、タイ語ではタイ文字表記で取り入れている。表2のような語が挙げられる。

表2 日・タイの音訳語の例

| 英語                          | 日本語    | タイ語                         |
|-----------------------------|--------|-----------------------------|
| badminton<br>[ˈbædmɪntən]   | バドミントン | แบดมินตัน [bètmintân]       |
| technology<br>[tekˈnɒlədʒi] | テクノロジー | เทคโนโลยี<br>[téknoolooyîi] |
| seminar<br>[ˈsemɪnɑː]       | セミナー   | สัมมนา [sámmánaa]           |

3) 複合構造訳：

本来の意味・発音を保つために音訳の方法で取り入れながら、概念の一部を表現するための意識を組み合わせて受容する方法。

日本語は、カタカナ表記と漢字または平仮名の組み合わせで、タイ語は意識タイ文字と音訳タイ文字で受け入れられている。

表3 日・タイの複合構造訳語の例

| 英語               | 日本語                | タイ語  |
|------------------|--------------------|--|
| golf course      | ゴルフ <sup>4</sup> 場 | สนามกอล์ฟ<br>[sanāam kóp]                    |
| online education | オンライン教育            | การศึกษาออนไลน์<br>[kaan sùksāa<br>?oonlaay] |
| metric system    | メートル法              | ระบบเมตริก<br>[rábòp méétrik]                |

表3は両言語の「複合構造訳」の方法で取り入れられた外来語の例を取り上げた。なお、タイ語は修飾語が被修飾語の後に来るので、英語および日本語との語順が異なる。

4) 外国語表記：

英語のアルファベット表記のまま受容する方法。

この受容法は日本語とタイ語ともに広告、音楽、雑誌などの大衆文化において多用されている。例えば、「SPEED, GLAY, E.L.T, MAX」などの日本のミュージシャンの名前の一部や(ジュームズ,2010)と「Bodyslam, Playground, Crescendo, Getsunova, 25 Hours」などのタイのミュージシャンの名前(kapook.com)にアルファベットが用いられている。また、「WHITE&WHITE」(歯磨き粉)、「Milky Fish」(キャットフード)、「Cattle-Boutique」(革製品)などのような日本の商品名や広告キャッチフレーズや「MEGA SALE, DRIVE the MOMENT, Best Deal!, Hot Promotion!!, Life is Unique」などのタイの広告のキャッチフレーズが挙げられる。

4.2 日本語とタイ語における英語の受容の共通点と相違点

4.2.1 共通点

外国語の受容方法について、日タイ語における英語由来の外来語の共通点は3点見られた。

第1は、「意識」、「音訳」「複合構造訳」「外国語表記」の4種類の受容法によって英語を受け入れていること。

第2は、「音訳」の方法で外来語を受容することが一般的であること。

第3は、両言語において、原語の音訳語の省略語が作られること。例としては表4にまとめた。

表4 日・タイの音訳語の省略の例

| 英語              | 音訳                                | 省略               |
|-----------------|-----------------------------------|------------------|
| ice-cream       | アイスクリーム                           | アイス              |
|                 | ไอศกรีม<br>[aisàkriim]            | ไอติม<br>[aitim] |
| air conditioner | エア・コンディショナー                       | エ ア コ<br>ン       |
|                 | แอร์ก้อนฉั่น<br>[ʔɛɛ khòndichân]  | แอร์[ʔɛɛ]        |
| professional    | プロフェッショナル                         | プロ               |
|                 | โปรเฟสชันนอล<br>[prooféeschânnòl] | โปร[proof]       |

#### 4.2.2 相違点

共通点と同様、外国語の受容法について、日タイにおける英語由来の外来語の相違点は4点考察できた。

1) 表記：外来語は日本語の場合、「カタカナ」で表記するのに対し、タイ語は「タイ文字」で表記する。

2) 音声：「強弱アクセント」の英語は日本語に取り入れられる際は、「高低アクセント」に変わり、タイ語に取り入れられる際は、「声調アクセント」に変化する。したがって、アクセントの位置が原語と異なることがある。

しかし、日本語では声の下がりがない、いわゆるアクセントの平板化の例が増加しているといわれている。また、タイ語は単音節の場合は常に強勢を受けているが、複音節の場合は必ず最後の音節に強勢をつける (Watana, 1981)。英語を取り入れる際、アクセントの位置が最終音節でなくても、タイ語の体系と同じようにアクセントが最

終音節に置かれる。例えば、「motor[ˈmɔʊtə]」は「มอร์เตอร์[mɔʊtǎə]」となり、lacquer[ˈlækə]は「แลคเกอร์[lɛkkǎə]」になる。

3) 日本語における外来語品詞の転化：外来語の名詞に“る”を附加し、名詞を動詞化させる「スタバる、デコる、トラブる、ダブる」などのような“る”ことばを作ることや、「イメージする、プレゼントする、オープンする、スタートする」のように名詞にサ変動詞を付けることや、助辞「な」あるいは「に」を後置し、「スマートな、カジュアルな」のように形容動詞化する現象などが見られる。

4) 省略語の反復：この現象はタイ語には見られたが、日本語には見られない。これは話し言葉における外来語が表す程度や状態を強調するために使用される。

例1: 「chill out, chill」→「ฉิว[chiw]」→「ฉิว ฉิว [chiw chiw]」

วันหยุดนี้ เราไปถ่ายรูปแบบฉิวฉิวกัน

[wan yùt ní rao pai thàayrûup bɛɛp chiw chiw kan] (訳：今度の休みにのんびりと写真を撮りに行こう)

例2: 「basic」→「เบสิค [beesik]」→「เบเบ [bee bee]」

เรื่องแบบนี้เบเบใครๆก็รู้

[rúaj bɛɛp ní beebee khrai khrai kǎw rúu]

(訳：こんな根本的なことは誰でも知っている)

[chiw chiw]の反復でのんびりすること、[bee bee]は本当に根本的なことであることの強調がなされている。

#### 4.3 日本語におけるタイ語由来の外来語とタイ語における日本語由来の外来語の受容について

##### 4.3.1 日本語におけるタイ語由来の外来語の受容 (以下、「タイ語由来の外来語」とする)

タイ語由来の外来語は少なく、本稿で収集できた語は① トムヤムクン (トムヤム・クン、トム

ヤム、トムヤンクン、トムヤム<sup>5)</sup> ②トウクトウク<sup>6)</sup> ③ソムタム<sup>7)</sup> ④ロイクラトン (ロイカトン、ローイクラトン)<sup>8)</sup> ⑤ナンプラー (ナン・プラー、ナムプラー)<sup>9)</sup> ⑥パクチャー (パクチャー)<sup>10)</sup> ⑦ムエタイ<sup>11)</sup> ⑧ヤムウンセン<sup>12)</sup> ⑨パッター<sup>13)</sup> ⑩ ガパオ (ガッパオ、ガブラオ)<sup>14)</sup> ⑪ チュムチュム<sup>15)</sup> の 11 語のみであり、衣食住関連用語がほとんどである。これらは、「音訳」で取り入れられることが見て取れる。

「ナンプラー、トムヤムクン」のような単独語で受容することが多いが、「トムヤム麵、ロイカトン祭り、トウクトウクミニカー、トムヤム鍋スープ、鉄板ガパオうどん」のように「漢語」、「和語」また英語由来の「外来語」と組み合わせられた混種語も少なくない。

日常では使用されているが、外来語辞典に載っているほど定着しているタイ語由来の外来語は、「トムヤム・クン (トムヤム)<sup>16)</sup>、ナムプラー、パクチャー、ムエタイ」のわずか 4 語であった。しかし、本研究で取り扱う 2 つの外来語辞典の両方に掲載されているのは「ナンプラー」と「パクチャー」のみであった。

また、Google ウェブ検索で検索した結果、該当件数が最も多いのは「トムヤム」であり、2 位が「パッター」、3 位が「トウクトウク」、4 位が「ガパオ」、5 位が「パクチャー」となっている。「トムヤム」は外来語にも掲載されており、定着度がさらに確認できた。

さらに、Google トレンドを通して、検索ボリュームの上昇はオリンピックの開催や話題映画の上映などの社会における出来事の影響や季節との関連が考察できた。食文化関連用語に関しては夏になると検索ボリュームが大きい割合を占めていることから、日本では 7 月の夏期にはエスニック料理の人气が急増する傾向があるため、エスニック料理であるタイ料理も注目を浴び、興味関心が高くなることが考えられる。これによって、日本の食の習慣が考察できる。

なお、「チュムチュム」は 2011 年に新聞に初出現したことから、今後の日本語におけるタイ語由来の外来語は増加することが考えられる。

#### 4.3.2 タイ語における日本語由来の外来語について (以下、「日本語由来の外来語」とする)

本稿ではチューシー (2012)、ウィライラック (2012) および山口 (2012) の研究を基にし、121 語の日本語由来の外来語を調査対象とした。

『分類語彙表』(2004)に基づいて、食料 (43 語: สุชิ[suushí] (寿司), สุกี้ซากี้[sùkiiyaakí] (すき焼き)), 植物 (8 語: ส้มยูสุ[sóm yuusù] (柚子), เห็ดค้อเรนจิ[hèd ?worencì] (エリンギ)), 人物 (7 語: ยากุซ่า[yaakuusâa] (やくざ), โอตาคุ[?ootakù] (オタク)), 芸術 (7 語: โดเรม่อน[dooreemôn] (ドラえもん), อนิเมะ[?animè] (アニメ)), スポーツ (6 語: การาคี[khaaraatêe] (空手), ซูโม้[suumôo] (相撲)) などの 30 種類に分類することができた。そのなかでも食料関連用語が最も多いことが明らかになった。

そのほとんどは「音訳」で取り入れているが、音訳と意識を組み合わせた「複合構造訳」で取り入れられた語も少なくない。例えば、「โรคคาวาซากิ[rôok kaawaasaakí] (病+川崎=川崎病)、「เสื่อทาทมิ[sua taataamí] (マット+畳=畳) である。また、「意訳」で受容された語は「หมูดำ[mū dam] (豚+黒い=黒豚)、「ปูอัด[puu àt] (蟹+圧縮=蟹かまぼこ)、「ปลาฉิม[plaa dīp] (魚+生=刺身) の 3 語が見られた。

「音訳」で受容された外来語の中には「転義」、「拡張」、「省略」が見られた。

まず、「転義」は「จูนจูน[cúbùcúbù] (「つぶつぶ」から「キス」に)、「กึญจอนเนะ[kíkkù ?aanooné] (「あのね」から「無邪気でかわいく振る舞う」に) などがある。

「จูนจูน[cúbùcúbù] は日本製菓商品のキャッチコピーに使われていたが、その発音を面白く取り、本来の「つぶつぶ」の意味と全く関係なく「キス」という意味に使われるようになった。「กึญจอนเนะ

[kíkùaaanooné] は「あのね」から転用されたと思われるが、由来が不明である。しかし、1993 年頃タイの人気アイドルの曲名となり、その認知度が広まったといえる。

次に、「意味の拡張」は、「ชาบู [saamuurai]」と「ซาкуру [saakurá]」が挙げられる。

「侍」と「桜」は日本のことを意味し、また、「侍」は日本の男性、「桜」は日本の女性という意味に拡張された。これは、「侍」および「桜」は日本の代表的なものであり、日本の男性は「侍」のように逞しく、女性は「桜」のように美しいというイメージから派生したと考えられる。

例：侍

อย.กุ่มเข้มอาหาร"ชาบู"สั่งทุกด้านตรวจวัดค่ารังสี

(タイ食品医薬品局 (FDA) が日本食品の放射能検査を強化) (Naewnaa, 2013/3)

また、「音訳語の省略」は「สุกี้ [sùkiiyaakii]」(すき焼き) を「สุกี้ [sùkii]」、「ชาบูชาบู [chaabuu chaabuu]」(しゃぶしゃぶ) を「ชาบู [chaabuu]」、「การาโอเค [kaaraaookè]」(カラオケ) を「เเค [kè]」と語の短縮が見られた。

3 種類の受容法が見られた上、「音訳」と「意識」両方が用いられている語と「意識」と「複合構造訳」の両方が用いられる語も確認できた。

「音訳」と「意識」が利用される語は、4 語見られた。以下の表 5 にまとめた。

表 5 「音訳」・「意識」の併用語

| 語    | 音訳                   | 意識                          |
|------|----------------------|-----------------------------|
| 刺身   | ซาซิมิ [saasimí]     | ปลาดิบ[plaadíp]<br>魚+生      |
| おにぎり | โอนิฉิริ [?ooniníri] | ข้าวปั้น [khâwpân]<br>飯+にぎる |
| 海苔   | โนริ [noori]         | สาหร่าย [sáaraay]<br>のり     |

|    |                      |                        |
|----|----------------------|------------------------|
| 黒豚 | คูโรบูตะ [kúroobutà] | หมูดำ [mūudam]<br>豚+黒い |
|----|----------------------|------------------------|

表 5 から刺身は、タイ語では音訳の ซาซิมิ[suasimí] と生と魚を組み合わせた意識の ปลาดิบ[plaadíp]が使用され、おにぎりは音訳の โอนิฉิริ[?ooniníri]と飯と握るを合体させた ข้าวปั้น[khâwpân]という言葉両方が日本語由来の外來語に用いられることが見て取れる。

「意識」と「複合構造訳」の併用の場合は、表 6 に挙げた例が見られた。

表 6 「意識」・「複合構造訳」の併用語

| 語  | 音訳             | 複合構造訳  |
|----|----------------|--|
| 禅  | เซน[sen]       | นิกาย/ศาสนา เซน<br>[níkaay]/[sàatsànaã] [sen]<br>(宗派)/(宗教)+禅 |
| 和牛 | วากิว [waakiw] | เนื้อวากิว[núua waakiw]<br>(肉) + 和牛                          |
| 餅  | โมจิ [mooci]   | ขนมโมจิ [khànm mooci]<br>(菓子) + 餅                            |

「複合構造訳」の意識の部分はその事物の概念を表すタイ語で表現されている。ここで「餅」の例を取り上げる。

例：餅

音訳：โมจิ [mooci]

ผู้เฒ่าผู้ปุ่น ๖รายส้าล็กโมจิดับอนาก

(訳：餅を詰ませ 6 人日本高齢者死亡)

(Manager, 2011/1)

複合構造訳：ขนมโมจิ [khànm mooci]

สลด"ขนมโมจิ"ฉลองปีใหม่ติดคอก ช่นดับ๖ ส้าสข

(訳：新年を祝う餅をのどに詰ませ 6 人死亡 5 人重体) (Thairat, 2011/1)

この例からは同じ事件のニュース報道において、

日本の餅にあたるものを示すのに音訳語と複合構造訳語の両方が用いられていることが見て取れる。

以上のように対象とした121語が多様な受容方法でタイ語に取り入れられていることが分かった。

それらの121語中25語がタイ語批点に立項されていることが明らかになった。

タイ王立学士院の辞典では、「禅、すき焼き、柔道、空手、着物、神道、芸者」の音訳語があり、日本の伝統文化・思考に関するものが目立つ。一方、新語辞典では「ドラえもん、刺身の意識:ปลาดิบ [plaa dip]、あのね、醤油、わさび、盆栽」などの食文化・サブ・カルチャー関連語が掲載されている。タイ日辞典に掲載される語は、「名古屋、大阪、空手、侍、桜、カラオケ」などの固有地名や日本の代表的な物事である。

Google トрендにおける検索の傾向を見ると、タイ語における日本語由来の外来語は、検索ボリュームが表示されるようになってから継続的に出現している。全体を占める割合が少なく表示される語はほとんどない。言い換えれば、日本語由来の外来語はタイ語に受容されてから、その興味関心・使用は続いているといえよう。

また、2004年にオリンピックが開催された時のスポーツ関連の日本語由来外来語の検索ボリュームが大きいことから、当時の社会で起こっていることが外来語の増減と深く関連していると考えられる。

#### 4.3.3 両言語における外国語の受容の共通点

日本語におけるタイ語由来の外来語及びタイ語における日本語由来の外来語の共通点は以下の通りである。

- 1) 「音訳」の方法で外来語を取り入れることが最も一般的である。
- 2) 音訳と意識を組み合わせた複合的な取り入れ方も少なくない。
- 3) 両言語に入った外来語は衣食住関連の生活用語が多い。特に食文化に関する語は最も多く見

られた。

4) 原音とのゆれが見られる。日本語におけるタイ語由来の外来語は子音が音節化されたり、促音が付加されたりすることがある。一方、タイ語における日本語由来の外来語は、長音化されることや、最終音節に強勢が置かれることが挙げられる。

#### 4.3.4 両言語における外国語の受容の相違点

本稿で考察できた相違点は、タイ語に入っている日本語には意味の転化や拡張が見られたが、日本語に入っているタイ語には見られない点である。

タイ語における日本語由来の外来語は定着が進んでいるため、このような意味の転化や拡張が見られたが、日本語におけるタイ語由来の外来語は未だ少ないため、このような変化は見られなかったと考えられる。

## 5. まとめ

以上日本語とタイ語における外国語の受容を考察してきた。

外国語の受容方法について、両言語共に1)「意識」の方法、2)「音訳」の方法、3)「複合構造訳」の方法、4) 外国語表記の4種類から英語由来の外来語を受け入れていることが分かった。

「音訳」の受容法は「外来語」を取り入れるための一般的な方法であることが確認できた。また、英語の音訳語を省略することは両言語に見られた。

言語体系の違いにより、受容された外来語の表記及びアクセントの相違が見られた。つまり、日本語は、「カタカナ」で外来語を受け入れるのに対し、タイ語は「タイ文字」で受け入れている。また、「強調アクセント」である英語は、日本語に取り入れられる際、「高低アクセント」に変化される。一方、タイ語に受容される際、「声調アクセント」に変化するのである。その他、日本語特有な品詞の転成（“る”ことば）、サ変動詞の附加、形容動詞化などはタイ語と相違する。さらに、タイ語は

音訳語またはその省略語の反復が用いられるが、日本語には用いられないという点が相違点としてみられた。

タイ語由来の外来語と日本語由来の外来語は、後者の方は多数で、様々な分野の語があることが明らかになった。

英語由来の外来語と同様、「音訳」の方法は両言語の外来語の一般的な取り入れ方である。なお、音訳と意識の複合的な取り入れ方も少なくない。また、両言語に多く取り入れられた語は衣食住関連の生活用語であることも共通している。さらに、両言語ともに原音とのゆれが見られた。

タイ語由来の外来語は少数のため、転義や意味の拡張は見られなかったが、タイ語における日本語由来の外来語は、転義・意味の拡張・省略の現象が考察できた。

また、外来語に対する興味関心は社会で起こった出来事、情報技術の発展、マスコミの外来語の使用と深く関連することが明らかになった。

さらに、以前からタイに受容され、辞典に立項された日本語由来の外来語は日本の伝統文化・思考に関するものが顕著である。現代新語辞典における食文化・サブカルチャー関連語が増加したことや、日本の新聞記事に最近初出現した語があることから、両言語における外来語は今後増加する傾向があると考えられる。

「水と外来語は高さから低きに流れる」という一般法則から考えると、文化的レベルが高いとされてきた西洋からの英語の影響が両言語に大きな影響を与えていることが理解できる。また、日本語からタイ語に入っている外来語のほうが、タイ語から日本語に入っている外来語より多いことから、タイと比較して日本は文化レベルが高く、日本語はタイ語及びタイの文化に大きな影響を与えているといえる。

## 註

<sup>1</sup> พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน ๒๕๔๒ (http://rirs3.royin.go.th/dictionary.asp)

<sup>2</sup> <https://www.google.co.jp>

<sup>3</sup> <http://www.google.co.jp/trends/>

<sup>4</sup> 下線は「音訳」を示す。

<sup>5</sup> 括弧内は同義異形語。

<sup>6</sup> 三輪車タクシー

<sup>7</sup> ババイヤサラダ

<sup>8</sup> 灯籠流し

<sup>9</sup> 魚醬

<sup>10</sup> コリアンダー

<sup>11</sup> タイ式ボクシング

<sup>12</sup> 春雨サラダ

<sup>13</sup> タイ風焼きそば

<sup>14</sup> バジル

<sup>15</sup> 東北の鍋料理

<sup>16</sup> 『コンサイスカタカナ語辞典 第3版』(2005)では「トムヤム」は親見出しになっているが、『現代用語の基礎知識カタカナ・外来語/略語辞典 改訂増補新版』(2009)では、「トムヤム・クン」が親見出しになっている。

## 参考文献

井上史雄(2012) 「日本語の世界進出—グーグルでみる外行語—」『外来語研究の新展開』 pp.97-111.

陣内正敏、田中牧郎、相澤正夫(2012)『外来語研究の新展開』おうふう。

ジェームズ・スタンロー著、吉田政紀、加藤将史訳(2010)『和製英語と日本人—言語文化接触のダイナミズム』新泉社

チェラーロンコーン大学成人教育センター(1994)『タイ文化の魅力—歴史・美術・建築・他 観光ガイドの手引き』

坂本比奈子(1984)「タイ語における外来語問題」『言語生活』391, pp. 43-45, 筑筑摩書房

中山英治(2007)「タイにおける日本語の受容—外来語・外国語としての日本語の姿—」『タイ国日本研究国際シンポジウム論文報告書』チェラーロンコーン大学, pp. 201-219.

([http://www.arts.chula.ac.th/~east/japanese/files/2008news/houkokusyo/houkokusyo\\_21.pdf](http://www.arts.chula.ac.th/~east/japanese/files/2008news/houkokusyo/houkokusyo_21.pdf))

ウイライラック・タンシリトンチャイ(2012)「日タイ両言語における外来語の比較(その1)—現代タイ語の中の外来語—」『日タイ言語文化研究』創刊号, 119-131.

チューシー・アサダーユット(2012)「タイ語における日本語の借用語と現代のタイ語母語話者の認知度」『日タイ言語文化研究』創刊号, 104-118.

Watana Udomwong (1981). English Loanwords in Thai. Chulalongkorn University.

Karnchana Nakaskul(1979) A note on English Loanwords in Thai The SEAlang Project

<http://sealang.net/sala/archives/pdf8/nacaskul1979note.pdf>



国立国語研究所(2004)『分類語彙表一増補改訂版』大日本図書

三省堂編修所編(2005)『コンサイスカタカナ語辞典』(第3版)

堀内克明監修・大森良子執筆・現代用語の基礎知識編集部編集(2009)『現代用語の基礎知識カタカナ・外来語/略語辞典』(改訂増補新版)自由国民社

富田竹二郎(1987)『タイ日辞典』養徳社

松山納(1994)『タイ語辞典』(第1版)大学書林

タイ王立学士院『ศัพท์ต่างประเทศที่ใช้คำไทยแทนได้』(2006)  
(タイ語で代用できる言葉)

(<http://www.royin.go.th/th/download/index1.php?SystemModuleKey=300&SystemMenuID=1>)

タイ王立学士院『พจนานุกรมคำใหม่ เล่ม๑』(2008), (タイ語

で代用できる言葉)

([http://www.royin.go.th/upload/246/FileUpload/2097\\_5163.pdf](http://www.royin.go.th/upload/246/FileUpload/2097_5163.pdf))

タイ王立学士院『พจนานุกรมคำใหม่ เล่ม๒』(2010), (タイ語で代用できる言葉)

([http://www.royin.go.th/upload/246/FileUpload/1823\\_9431.pdf](http://www.royin.go.th/upload/246/FileUpload/1823_9431.pdf))

タイ王立学士院『พจนานุกรมคำใหม่ เล่ม๓』(2012), (タイ語で代用できる言葉)

([http://www.royin.go.th/upload/246/FileUpload/2099\\_8105.pdf](http://www.royin.go.th/upload/246/FileUpload/2099_8105.pdf))

ราชบัณฑิตยสถาน พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน ๒๕๔๒  
(タイ・タイオンライン辞典

<http://rirs3.royin.go.th/dictionary.asp>)